

平成30年度第1回大分県地域医療構想調整会議 議事概要

東部医療圏	7月23日 18:30~20:00	別府豊泉荘
中部医療圏	7月30日 18:30~20:00	大分県医師会館6階研修室II
南部医療圏	7月24日 19:00~20:30	佐伯市医師会館2階大研修室
豊肥医療圏	7月20日 18:30~20:00	神楽会館
西部医療圏	8月17日 19:00~21:00	日田市医師会講堂
北部医療圏	7月31日 19:00~20:30	大分県宇佐総合庁舎別棟2階大会議室

【議題】

- (1)病床機能報告結果（暫定版）
- (2)新公立病院改革プラン
- (3)地域医療介護総合確保基金
- (4)国の動向
- (5)在宅医療・介護連携（南部・豊肥・西部）

【主な意見】

- ・医療、介護の全てにおいて現場は人が足りないというのが現実で、そのあたりをどうするのかを考えていかないと、地域医療構想の議論はうまくいかない。
- ・公立病院や公的病院が経営の黒字化のために採算を重視すると、民業圧迫になりかねない。
- ・病床に係る勧告等の権限について、県はどのように考えているか。
- ・医療圏の疾病構造が2025年までにどのように変わっていくのか、そういった具体的な推計値がないと議論を進められない。
- ・県単位の調整会議を設置するという方策が示されているが、地域の情勢を理解しているのはその地域なので、むしろ、現在の地域医療構想調整会議よりも縮小した協議会をつくり、各医療機関で話し合うべきである。
- ・調整会議で現実的な議論ができるよう、高齢人口あたりの療養病床数のデータも示すべきである。
- ・昨年度、公的医療機関等2025プランが議題となったが、その他の医療機関についてもプランを出してもらう予定はあるか。そういったものがないと、なかなか議論にならないのではないか。
- ・地域ごとの患者の動きがわかるデータがあるといい。
- ・非稼動病床は整理すべきである。医療機関にアンケートを取り、20年以上も稼動していないような病床については、廃止を求めるといった程度のごことは検討してもよいのではないか。
- ・2025年は団塊の世代が75歳以上となる。必要病床数のおり病床を減らしてしまえば、入るベッドがなくなるのではないか。
- ・医療と介護の連携については、開業医の関心がまだ薄いように思う。医師会も努力するが、行政からも働きかけてほしい。